

東京都日野市東平山 3-1-19

社会福祉法人 大家族

特別養護老人ホーム シンフォニア

～ごあいさつ～

虫の音を聞きながら考えました

真夏日による熱中症の心配もほとんどなくなり、虫の音にも秋の近づきを感じる今日この頃です。お変わりなく、お過ごしのことと存じます。

9月は、収穫を迎える季節の入り口であるとともに、人生の秋におられる高齢者の皆さんに、今までの人生でのご健闘をたたえる「敬老の日」の月でもあります。

当施設でも、「敬老の日」のイベントを準備しております。今年も、前年より少しでもいいものにしようと職員一同、頑張っています。ご期待ください。

毎朝、「おはようございます」と挨拶に伺って、一日一日をしっかりと生き切っておられる利用者の方に接するとき、「よく生きるとはどういうことなのか」と自問しております。

2500年前に、釈迦は、「この世には、絶対者も救済者もない。原因と結果の因果関係だけで動いていく非情な世界である。その中で人は、避けがたい苦しみに翻弄されながら生き続けねばならない。生きることそのものが苦しみなのだ。この苦しみを消すためには、外の救済者に助けを求めても意味がない。苦しみを消す唯一の方法は、自己鍛錬、つまり自分で修行を積み上げていくことにより自分自身を変えることだ。それしか道はない。」「良い人生を実現する唯一の道は、自分で一生懸命努力することだ。」という世界観を持ったと言うのです。（「出家的人生のすすめ」）

こんなことをなぜ問題にするかと言いますと、これから団塊世代の介護・医療が格段に必要となるのに、今、「30兆円の医療社会福祉予算が突出している」とニュースになり、他の予算の使い方は差し置いて、医療・介護はお荷物だとして、予算はむしろ削るばかりの政治を危惧するからです。そんな時代に、自分たちの人生、その後半部の一大事である介護を考えるのに従来の価値観の再検討も必要かと、仏教の本も手にした次第です。

そんな中、8月30日に国会周辺で若者を中心にした12万人の集会「戦争させない、9条壊すな！総がかり行動実行委員会」が安保法案反対を訴えたというのに、そのことは、東京新聞一面（8月31日）で見ただけで、NHKなどはニュースにしていないという異常さでした。殺人事件などの三面記事を繰り返し流し続けるのに。憲法学者のほとんどが違憲と言っても、押し進められる政治とは何なのか、人生のことも、世の中のことも、もう少し根本のところから考えるべき時代のように思えてきました。介護も然りです。これからも「いい介護とは」を考えながら頑張ります。よろしくご協力をお願いいたします。

社会福祉法人 大家族

理事長 佐々木 榮一

～イベント紹介～



↑ 理事長の開会挨拶



↑ 敬老会は終始和やかな雰囲気でした。



↑ 来賓の皆様よりご挨拶とお祝いのお言葉を頂きました。



↑ ひぐらし、さくら、川の流れるように、花は咲く…等素晴らしいお琴の演奏に皆様聞き入りました。



↑ お茶会の和菓子



↑ 職員による合唱は「涙そうそう」と「ふるさと」。イベントで初めて披露した「涙そうそう」は三線とピアノによる演奏で沖縄の雰囲気がよく出ていました。



↑ 長寿のお祝い状の贈呈

↓ 敬老祝賀弁当 (昼食)

